

## 令和7年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

令和6年8月9日

上場会社名 株式会社ナガホリ 上場取引所 東  
 コード番号 8139 URL <https://www.nagahori.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長堀 慶太  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 吾郷 雅文 TEL 03-3832-8266  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無：無  
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 令和7年3月期第1四半期の連結業績（令和6年4月1日～令和6年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
7年3月期第1四半期	5,472	12.4	122	1.9	126	2.4	46	—
6年3月期第1四半期	4,868	20.0	120	—	123	368.1	2	—

(注) 包括利益 7年3月期第1四半期 93百万円 (233.1%) 6年3月期第1四半期 28百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
7年3月期第1四半期	3.06	—
6年3月期第1四半期	0.19	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
7年3月期第1四半期	26,218	12,618	48.1	822.88
6年3月期	25,474	12,724	50.0	829.78

(参考) 自己資本 7年3月期第1四半期 12,618百万円 6年3月期 12,724百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
6年3月期	—	0.00	—	13.00	13.00
7年3月期	—	—	—	—	—
7年3月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 令和7年3月期の連結業績予想（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	10,500	△0.4	360	△16.2	330	△22.7	170	△11.6	11.09
通期	21,000	△3.8	800	△21.7	720	△27.9	400	△23.1	26.08

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無  
新規 一社 、除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	7年3月期1Q	16,773,376株	6年3月期	16,773,376株
② 期末自己株式数	7年3月期1Q	1,438,307株	6年3月期	1,438,307株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	7年3月期1Q	15,335,069株	6年3月期1Q	15,335,257株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：有（任意）

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	7
(セグメント情報等の注記) .....	8
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書 .....	9

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、社会活動の正常化による個人消費の回復やインバウンド需要の増加などを背景に、景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、円安の進行などによる物価高や金利上昇の影響、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や中東地域の紛争などの地政学的なリスク懸念など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

ジュエリー業界におきましても、個人消費の回復やインバウンド需要の増加などの動きがみられました。一方、円安や金利上昇、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化等のジュエリー商品への影響など、先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の下、当社グループは、富裕層マーケットをコアとする販売チャネルや商品ブランドに重点的に経営資源を投下する「選択と集中」の方針のもと、自社催事や顧客催事等の販売活動に取り組みました。また、銀座の百貨店店舗を開設し販売力強化を図り、財務の安定のため当座貸越契約を継続し、販売増につながる商品仕入や販売催事や自社ブランドの広告等への支出により販売強化を図りました。もう一方で、旺盛な海外需要への対応等による販売増、グループ内での販売商品製造強化や地金製品販売、小売店舗販売などグループ子会社各社においても販売増と概ね好調に推移しました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は54億72百万円（前年同期比 12.4%増）、営業利益1億22百万円（同 1.9%増）、経常利益1億26百万円（同 2.4%増）となり、リ・ジェネレーション株式会社その他の複数の株主らが、ほぼ同時期に当社株式を急速かつ大量に買い集めている状況を踏まえた緊急対応及び関連する株主対応等に係るアドバイザー費用43百万円を特別損失に計上したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純利益46百万円（前年同期 親会社株主に帰属する四半期純利益2百万円）となりました。

なお、セグメントごとの経営成績は以下のとおりであります。

宝飾事業の売上高は54億37百万円（前年同期比 12.5%増）、セグメント利益は98百万円（同 2.5%増）、貸ビル事業の売上高（外部顧客）は18百万円（同 13.4%減）、セグメント利益は14百万円（同 14.6%減）、太陽光発電事業の売上高は16百万円（同 13.6%増）、セグメント利益は9百万円（同 31.4%増）となりました。

### (2) 当四半期の財政状態の概況

#### (資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、262億18百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億44百万円の増加となりました。

流動資産は189億87百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億26百万円の増加となりました。これは主に商品及び製品が2億22百万円、原材料及び貯蔵品が4億61百万円それぞれ増加したことによります。

固定資産は72億30百万円となり、前連結会計年度末に比べ17百万円の増加となりました。これは主に投資有価証券が58百万円増加したことによります。

#### (負債)

負債は135億99百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億50百万円の増加となりました。

流動負債は122億73百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億57百万円の増加となりました。これは主に支払手形及び買掛金が5億84百万円、短期借入金が3億30百万円それぞれ増加したことによります。

固定負債は13億26百万円となり、前連結会計年度末に比べ7百万円の減少となりました。これは主に長期借入金が28百万円減少したことによります。

#### (純資産)

純資産は126億18百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億5百万円の減少となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益46百万円および剰余金の配当1億99百万円によるものであります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和7年3月期第2四半期（累計）及び令和7年3月期通期の連結業績予想につきましては、令和6年5月10日発表の業績予想からの変更はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和6年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和6年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,871,016	2,791,946
受取手形及び売掛金	3,060,516	3,100,736
商品及び製品	10,293,031	10,515,477
仕掛品	296,077	379,884
原材料及び貯蔵品	1,314,233	1,775,526
その他	444,754	443,358
貸倒引当金	△18,652	△19,048
流動資産合計	18,260,976	18,987,881
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,364,342	1,361,086
機械装置及び運搬具(純額)	148,107	142,292
土地	3,276,198	3,276,198
その他(純額)	256,140	252,322
有形固定資産合計	5,044,789	5,031,899
無形固定資産	46,163	42,868
投資その他の資産		
投資有価証券	1,306,338	1,364,554
長期貸付金	19,491	19,341
繰延税金資産	120,900	114,898
その他	887,620	869,144
貸倒引当金	△212,050	△211,840
投資その他の資産合計	2,122,300	2,156,098
固定資産合計	7,213,253	7,230,866
資産合計	25,474,230	26,218,748

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和6年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和6年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	841,873	1,426,784
短期借入金	9,520,000	9,850,000
1年内返済予定の長期借入金	115,504	115,504
未払法人税等	174,442	48,253
賞与引当金	86,061	56,564
役員賞与引当金	14,200	1,549
その他	663,340	774,746
流動負債合計	11,415,421	12,273,403
固定負債		
長期借入金	231,872	202,996
退職給付に係る負債	608,920	610,994
役員退職慰労引当金	171,166	175,949
繰延税金負債	92,989	110,542
再評価に係る繰延税金負債	48,841	48,841
その他	180,350	177,140
固定負債合計	1,334,140	1,326,464
負債合計	12,749,562	13,599,867
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,323,965	5,323,965
資本剰余金	6,275,173	6,275,173
利益剰余金	2,091,644	1,939,273
自己株式	△481,909	△481,909
株主資本合計	13,208,874	13,056,503
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	210,699	250,472
土地再評価差額金	△712,196	△712,196
為替換算調整勘定	17,290	24,102
その他の包括利益累計額合計	△484,206	△437,621
純資産合計	12,724,668	12,618,881
負債純資産合計	25,474,230	26,218,748

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和5年4月1日 至 令和5年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和6年4月1日 至 令和6年6月30日)
売上高	4,868,898	5,472,331
売上原価	3,604,741	4,117,867
売上総利益	1,264,157	1,354,464
販売費及び一般管理費	1,143,781	1,231,804
営業利益	120,375	122,659
営業外収益		
受取利息	35	12
受取配当金	12,313	13,761
為替差益	3,627	6,401
保険返戻金	2,000	2,281
その他	5,350	7,849
営業外収益合計	23,328	30,307
営業外費用		
支払利息	20,126	25,636
その他	244	1,098
営業外費用合計	20,370	26,734
経常利益	123,334	126,232
特別利益		
固定資産処分益	3,290	—
特別利益合計	3,290	—
特別損失		
固定資産処分損	513	—
アドバイザー費用	84,127	43,900
特別損失合計	84,640	43,900
税金等調整前四半期純利益	41,984	82,332
法人税、住民税及び事業税	34,055	29,346
法人税等調整額	4,965	6,001
法人税等合計	39,020	35,347
四半期純利益	2,963	46,984
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,963	46,984

## (四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和5年4月1日 至 令和5年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和6年4月1日 至 令和6年6月30日)
四半期純利益	2,963	46,984
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	25,139	39,773
為替換算調整勘定	△8	6,811
その他の包括利益合計	25,130	46,584
四半期包括利益	28,093	93,568
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	28,093	93,568
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和5年4月1日 至 令和5年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和6年4月1日 至 令和6年6月30日)
減価償却費	46,271千円	43,655千円
のれんの償却額	50千円	150千円

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間(自令和5年4月1日 至令和5年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	宝飾事業	貸ビル事業	太陽光発電 事業	計		
売上高						
一時点で移転される財	4,833,173	—	—	4,833,173	—	4,833,173
一定の期間にわたり移転 される財	—	—	14,130	14,130	—	14,130
顧客との契約から生じる 収益	4,833,173	—	14,130	4,847,304	—	4,847,304
その他の収益	—	21,593	—	21,593	—	21,593
外部顧客への売上高	4,833,173	21,593	14,130	4,868,898	—	4,868,898
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	3,147	—	3,147	△3,147	—
計	4,833,173	24,740	14,130	4,872,045	△3,147	4,868,898
セグメント利益	96,579	16,515	7,280	120,375	—	120,375

(注) セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自令和6年4月1日 至令和6年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	宝飾事業	貸ビル事業	太陽光発電 事業	計		
売上高						
一時点で移転される財	5,437,570	—	—	5,437,570	—	5,437,570
一定の期間にわたり移転 される財	—	—	16,054	16,054	—	16,054
顧客との契約から生じる 収益	5,437,570	—	16,054	5,453,624	—	5,453,624
その他の収益	—	18,706	—	18,706	—	18,706
外部顧客への売上高	5,437,570	18,706	16,054	5,472,331	—	5,472,331
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	3,147	—	3,147	△3,147	—
計	5,437,570	21,853	16,054	5,475,478	△3,147	5,472,331
セグメント利益	98,994	14,100	9,565	122,659	—	122,659

(注) セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

**独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書**

令和6年8月9日

株式会社ナガホリ

取締役会 御中

監査法人日本橋事務所

東京都中央区

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 森岡 健二

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 遠藤 洋一

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 山村 浩太郎

**監査人の結論**

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている株式会社ナガホリの令和6年4月1日から令和7年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（令和6年4月1日から令和6年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（令和6年4月1日から令和6年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

**監査人の結論の根拠**

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

**四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任**

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2. XBRL データ及び HTML データは期中レビューの対象には含まれていません。